



高等教育セミナーに参加して(3)

飯島元学長をして、今日、高等教育への失望感を抱かせている原因の第一は、各機関による自己点検・評価と、陸続公刊される「自己点検報告書」＝「白書」の実態にあった。

「大学がその社会的使命を自覚し、大学の根本理念に照らして絶えず自己の教育、研究および社会的寄与について検証し、評価を明らかにするとともに、教育、研究等の状況についてその情報を広く内外に公開することを要請する」。臨教審第二次答申（昭和六十一年）に盛り込まれたこの内容こそは、飯島氏ら第四部会が提起したものであり、今日の自己点検・評価の原点がそこにある。では、そもそも氏が想定していた「自己点検」とはどのようなものであったのか。以下はセミナーでの発言である。

「イギリスの大学では、毎年「年次報告書」(Vice-Chancellor's Annual Report)*なるものが出されている。年次報告ゆえに統計等が含まれることは当然である。ただ、肝要なのは、学長が自ら責任をもってまとめ上げるだけに、そこには、一個の独立した人間なればこそその苦悩や葛藤を発見しようという点であろう。施政方針にしても、その実現に当たって克服すべき課題が

具体的に明示されており、読後の感銘はなお私の中に深く留まっている」。

「血肉を持った人間が書くものならば、自然とそこに悩み・苦しみ・しみ出るものだが、日本の白書にはそれがない。「こういう建物を建てて、××をしました」など、事実の羅列に終始している場合が多く、活き活きとした精神が見えてこない。臨教審が求めたのは中身であって、版の大小、ページの多少、印刷技術などの無駄な競争を期待した覚えは一切ない」。

飯島氏の言葉に従えば、今や「自己点検」は「産みの親」の意図を離れ、およそ別の方向へ「独り歩き」を始めていくことになる。(以下次号)
(広島大学調査室 橋本 学)

* Vice-Chancellor's Annual Report は、文字通りに訳せば「副学長年次報告書」ということになるが、日田民主教育協会「海外大学教育総合調査報告書」(一九六四年)では、Vice-Chancellor について「大学の学事を管理する最高の役員」とあり、本学教育学部助教授・安原義仁氏(西洋教育史)のご助言によれば、イギリスの大学の場合「Chancellor」＝「学長」とはいわゆる名譽職であり、Vice-Chancellor が実質的な「学長職」に相当する、とのことである。なお安原氏からは、前記 Annual Report が「評議会」など各大学の意思決定機関で毎年報告されること、また後日公刊されるがゆえに外部評価の対象となりうる、などの説明も頂いた。

広大生協ベストセラー・トップ・テン

- ① 新・ゴーマニズム宣言? 小林よしのり 小学館
- ② 「複雑系」とは何か 吉永良正 講談社
- ③ PLATEX2 for Windows Basic Kit v0 乙部敏己 ソフトバンク
- ④ 岩波文庫解説目録全3冊 岩波文庫
- ⑤ 英語の語源物語 今里智見 丸善ライブラリー
- ⑥ 少年H(エッチ)上巻 妹尾河童 講談社
- ⑦ 芭蕉目録奥の細道 岩波書店
- ⑧ 先生を困らせた24の質問 朝日新聞社
- ⑨ マーチン・M・ゴールドウィン 三田出版会
- ⑩ 動物学がわかる Aera nook 朝日新聞社
- ⑪ ヒルベルト23の問題 杉浦光夫 日本評論社

広報委員会では、本誌の基本的な編集方針と投稿規定を次のとおり定めております。本誌に関するご意見、ご要望などをお寄せください。原稿をお待ちしております。

★編集基本方針

- 一、本学の責任機関の意志あるいは決定された内容の伝達と周知
- 二、本学の状況についての報道と資料の提供
- 三、本学にかかわる意見の交流

★投稿規定

- 一、文字数は二千字以内とします(図、写真は、一枚を二百字と換算)。原稿は、原則としてMS-DOSのテキストファイルのフロッピーディスクに記入し、ハードコピーと図表を別途添付してください。
 - 二、本文には、四百字程度で小見出しをつけてください。
 - 三、原稿は原則として掲載します。ただし、特定の個人及び団体を誹ぼう中傷する原稿または本誌の目的や性格に照らして不適当と思われる原稿は、掲載しません。
 - 四、採否は広報委員会が決定します。
 - 五、提出された原稿は、掲載の有無にかかわらず、返却いたしません。
- ★次号は六月上旬に発行予定です。



夏季休業の変更について

平成九年度から

七月十一日～八月三十一日が

八月一日～九月二十日に

変更になります。